

目標達成計画

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	日中、玄関側の階段の施錠がされている。単独の外出の危険性もあるが、身体拘束につながる。鍵が掛かっていることで、安心感を持っているのではないかと。鍵を外す事で開いていたらどうするかという危機感を持っていかなければならない。	朝の申し送りが終了した時点から、夜勤帯の申し送り開始まで開錠を行う。	開閉式のセンサーを取り付ける。開錠、施錠の申し送りを1・2階職員に確実にを行う。センサー音に頼らない意識を持ち、ご利用者の所在確認を徹底していく。	1ヶ月
2	34	事故発生時、緊急時の初期対応の学びは行われているが、定期的ではない。繰り返し行う事で実際の場面で速やかに活かせるようにしなければならない。	緊急時マニュアルの習得。応急処置時必要な物品、連絡方法の準備徹底を行う。	看護師による救急処置の研修会を行う。応急処置物品、連絡体制の定期的な確認を行う。勉強会を定期的に行う。	7ヶ月
3	35	災害時、職員だけの誘導では限界がある。苑の周辺には民家が少なく、日頃より、地域住民、警察、消防署との連携をとり具体的な支援体制の整備をし、定期的な訓練を繰り返し行わなければならない。	地域住民、地域の派出所にグループホームの存在を更にアピールしていく。	区長さんをはじめ地域の皆さんに納涼会等の行事にお誘いし、グループホームについてもっと知ってもらおう。地域の行事には積極的に参加する。地域の派出所に協力依頼の文書と広報の配布をする。	7ヶ月
4		年間行事としての外出は行われている。職員の入替わりにより体勢が整わなかったことも一因であるが、個別の希望による外出の機会が少なかった。また、外出を希望しないご利用者もあり、その人らしい暮らしの支援に至っていない。	個々のご利用者の希望に添った外出の機会を増やしていく。気分転換のための散歩や外食の機会も設けていく。	日頃から、それぞれのご利用者の希望や好みなど受け止めておき、職員体勢を整え実現につなげる。気分転換のため気軽な散歩など、外出という言葉に捉われず、日常生活の一部として実践していく。	7ヶ月
5					ヶ月